

「保育内容の研究」の授業のあり方について

○ 佐 藤 登 磯 部 景 子 荘 司 泰 弘
(山 口 大 学)

はじめに

永年「保育内容の研究」の授業内容に関して、保育の行なわれている場で保育者の感性を磨く必要があると主張し努力してきた。昭和62年度に2年生〔3・4期の「社会」・「自然」・「言語」分野を3コマ連続させる事によって学生が「保育」に参加する場を持つ事ができた。

これは授業担当者の努力のみでできる事ではなく、教育学部の学務担当者のカリキュラム編成において並々な配慮とこれに関係した方々の協力、附属幼稚園の学生受入れについて等、様々な準備無しには不可能な事であった。

換言すれば教育学部においてカリキュラムの改革をするためにはこの様な多様な努力が必要であると同時に、改革の必要性の根拠を明白にする事が求められていると云えよう。

この発表は改革の途中ではあるが、「保育内容の研究」の授業内容の一部が、附属幼稚園の保育の場で行なわれた経過を明らかにして更なる改善を進めるために行なうものである。

研究内容

・授業の経過 幼稚園課程の設置時から「保育内容の研究」は学部全体の協力のもとに行なわれており、「社会」・「自然」・「言語」は2年生、「健康」・「音楽リズム」・「絵画製作」は3年生に開講されている。

幼児教育を学ぶ際、子どもの世界を抽象的に理解しても真に主体的な内容として把握するには限界があるとして保育参加の意味を追求してきた。また、それは3年生の教育実習の教育的意味との関連を考えてのことであった。

昭和62年度から2年生の「保育内容の研究」を3コマ連続して並んで組み、保育参加の可能性が生まれた。附属幼稚園と相談して保育参加日が決められ、大学での授業は内容によって3コマ連続したり、形態別に区切ったりして行なわれている。(表1参照)なお、附属幼稚園での保育が可能になった背景には、日常的に幼稚園と保育についての具体的な話し合いを行ない互いに相手の状況を理解しようとしてきた事がある。

表1 授業形態と授業回数

授業形態 / 年度	1987	1988	1989
幼稚園での保育参加	7	8	7
3コマ連続授業(演習・実習)	9	7	11
3コマ区切り授業	5	6	1
学生による保育内容の研究	8	7	8

共通理解

① 授業の連続性について 大学の授業科目「保育内容の研究」の「言語」・「自然」・「社会」の枠に縛られずに、子どもの生活に添って、「保育内容の研究」の授業を考える。

② 幼稚園での保育参加について 子どもについて学ぶためには子どものいる所で学ぶ事が大切であると考え、幼稚園に行くこととあるがままの状態で幼稚園に解け込むことを大切に考えた。幼稚園に行く日は保育時間の部分的な時間帯に保育に参加するのではなく、幼稚園の1日に丸ごと参加する。

③ 保育について 幼児教育は環境による保育である。幼稚園での学生の存在を人的環境として意味づけた。

1989年(平成元年)度の授業内容

① 行事 研究会、幼稚園祭り、運動会、七夕祭、月見会、夏期保育への参加

② 保育後のミーティング 幼稚園の先生を交えて日々の保育活動をもとにして子どもについての情報交換をする。

③ 学生による保育内容の研究 保育体験を活かして、保育材の追求・制作・資料化・並びに発表をする班ごとのまとめを行なう。

④ イモ掘り イモ掘り当日の活動だけでなく、日常の保育のなかに活かしたものにする。焼きイモやイモ版等の活動が生じた際に必要に応じて利用できる。

- ⑤ 田植え・稲刈り 実験実習農場での実習は大人のためのものではなく、子どもが自然と親しむ環境として用意されている。
- ⑥ 環境づくり 授業で学んだことを附属幼稚園祭りで活かす。日常の作業の中で環境を調整する。
- ⑦ 秋吉台での合宿 自然に親しみ、共同生活により、社会性を高める。

11.30	講義・演習「言語」	子どもと物語の世界
12.7	講義・演習「社会」	鳥瞰的遊具模型制作
12.14	研究 ①	学生の保育材研究 ①
12.21	研究 ②	発表 ①
1.11	研究 ③	学生の保育材研究 ②
1.18	研究 ④	発表 ②
1.25	まとめ ②	記録・文献による学習

表2 1989年度授業内容

4.14	オリエンテーション	保育の意味を説明 班編成(4人×10班)
4.21	保育参加 ①	保育記録 ① 作業
4.28	講義・演習「社会」	遊びの再創造折り紙
4.29.30	野外合宿	2・3年生合同の 秋吉台合宿
5.12	保育参加 ②	保育記録 ②「自然」 動植物の飼育栽培
5.19	講義・演習「社会」	遊びの再創造 紙トンボ・プラバン
5.26	保育参加 ③	保育記録 ③「言語」 保育場面における子どもの言葉Ⅰ
6.2	講義・演習「社会」	遊びの再創造 ペープサート プンブンこま
6.9	野外実習「自然」	田植え 園児 サツマイモつる挿し 昼食づくり
6.16	講義・演習「社会」	遊びの再創造 あやとり
6.23	保育参加 ④	保育記録 ④「言語」 保育場面における子どもの言葉Ⅱ
6.30	保育参加 ⑤	保育記録 ⑤
7.7	まとめ ①	保育記録をもとに班別に保育体験についての話し合い
9.8	保育参加 ⑥	保育記録 ⑥ 祭り準備 附幼祭りのビデオ
9.10	保育参加 ⑦	保育記録 ⑦ 附幼祭 学生による「南の島で遊ぼう」コーナー
10.12	野外実習「自然」	稲刈り 園児 園児 サツマイモ掘り 昼食づくり
10.19	講義・実習「自然」	草花の栽培 球根・植え付
10.26	講義「社会」	社会性の発達
11.2	大学祭	人形劇公演(次年度の 附幼祭りにも公演)
11.16	野外実習	徳山動物園見学

問題点と今後の課題

- ① 学生の保育への入り方 全員参加が望ましいのか 主体的授業参加をしない学生の対応
- ② 1クラスに入る学生の人数 現在8名
- ③ 授業日と保育参加日の調整 子どもが落ち着く時期に保育参加できない
- ④ 疑問や質問の対応 レポートへの対応の迅速性
- ⑤ 準備 特に附属幼稚園との連絡や、事前の打合せをより綿密にする
- ⑥ 2・3・4年生の縦の繋がり 授業を越えた授業 保育について互いに学び合う場を大切にする

学生のレポートから

- ① 子どもを甘く見ていた。
- ② 幼稚園の先生の大変さがわかった。
- ③ 後期も保育参加がしなかった。
- ④ 幼児教育の内容の難しさがわかった。
- ⑤ 講義で学んだ知識を保育の場で確かめたい。
- ⑥ 保育に入る前の予備知識が必要である。
- ⑦ こちらがだらだらしていると子どもにすぐ感づかれてしまう。
- ⑧ 疑問はすぐ解決せず、時間をかけてほしい。
- ⑨ 講義では発達段階に応じた指導ということを教わったが、具体的にはどうすれば良いのか。

まとめ

3つの領域を授業形態と内容において纏めた事により、学生にとっては、保育の流れに継続的に触れる事ができ、幼稚園の生活のリズムに合った活動ができる4年生に至る過程として意義深い。

子どもは学生を遊んでくれる人として心待ちしてる。